

2025 年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要（WEB 公開用）

高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [尾野 歩夢]

学年・組・番号 [1 年 F 組 29 番]

研究課題： 江戸時代における民衆の妖怪文化に関する考察
(英文) A Study of Yokai Culture among the People in the Edo Period

研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について 200～400 字で記入してください)

本研究の研究対象は妖怪である。妖怪は超自然的介入とみなされた奇異の総称で、口承で伝わり、鳥山石燕の『画図百鬼夜行』以降浮世絵で視覚化され民衆に広まった。申請者は、なぜ江戸期に妖怪が民衆に定着し親しまれたのか、天狗信仰が盛んになる一方で幕府が弾圧した理由、河童が民衆にとって身近であった意味や、鬼が変貌を続け人々に恐怖を与えていた背景を解明したいと考える。図書館で史料調査を行い、京都大江山や高尾山・土浦などで巡検を実施し、論文として成果をまとめる。

研究成果：

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について 200～400 字で記入してください)

本研究において、「妖怪」は範囲が広く多様で研究が散漫になり得るため、対象を「天狗」に絞り、地域伝承や浮世絵の視覚化を手がかりに天狗に対する信仰の形成や天狗が生まれた理由となる民衆心理、天狗と政治の関係、「妖怪」の現代の扱われ方、また、「妖怪」が存在し続けた要因を史料と高尾山への巡検で調査し、まとめた。

本研究の成果として、以下に記した論文、口頭発表を実施した。

・論文「天狗の伝承と天狗信仰に関する考察（『令和 7 年度早稲田大学高等学院民族プロジェクト研究紀要』民俗学プロジェクト、2025）

・口頭発表「天狗の伝承と天狗信仰に関する考察」（2025 年度学芸発表会）

研究者：（以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する）

研究代表者 1 年 F 組 尾野 歩夢

研究分担者 1 年 F 組 小松 慧人 1 年 F 組 小林 光華

担当教諭 松澤 徹 (受給額：25,000 円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名が WEB ページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)



写真 1：高尾山薬王院境内にある飯縄権現像と大天狗、小天狗（2025 年 8 月 28 日申請者撮影）



写真 2：高尾山薬王院境内にある飯縄権現堂（2025 年 8 月 28 日申請者撮影）

以上